

4強2弱くつきりと？

GM杯 Season5 の第4節が6月23日のCool&Heat 前枠で行われた。パシフィックライジング [PR] がソーサリアンズ [Ys] を3タテし3位にジャンプアップ。ドラゴノーズ [Dr] はプリムストーンズ [BS] を、ディープワンズ [CD] はローテンヘムデン [RH] にそれぞれ2勝1敗で勝ち越して順位固めをした。[チーム投打成績、および個人の投打成績上位者→4ページ]

第5節は8月25日のCool&Heat 前枠開催。PR-CDの2位攻防が函館で開催。明治神宮ではBS-Ysの最下位脱出をかけた直接対戦が、長期ロードを終えたRHの松山ホーム戦がDrを相手に行われる。



第05号(2013年08月)

チーム	試合	勝	敗	分	率	差
Dr	12	8	4	0	.667	-
CD	12	7	4	1	.636	0.5
PR	12	7	5	0	.583	1.0
RH	12	6	6	0	.500	2.0
Ys	12	4	8	0	.333	4.0
BS	12	3	8	1	.273	4.5

※レギュラーシーズン30試合の上位2チームと勝率5割以上チームがポストシーズン進出

チームに勇気の先頭打者 IPHR9

俺に続けー！……引き分け挟んで3連敗中のプリムストーンズを、打率・安打数トップで牽引し続ける青木は、ホームベース上で起き上がり自軍ベンチに向かって激を飛ばした。この30秒前、プレイボールの掛け声の直後の彼の打球は、ライトのフェンス根元・ファウルラインのギリギリでフェアとなるライナー、フェンスに当たったあと大きくバウンドし、ファウルグラウンドへと転がった。瞬足を飛ばした彼はドラゴノーズ右翼清田が打球に追いついた頃2・3塁間、脚を緩めず一気にホームへ滑り込み、GM杯初のIPHR(注1)を記録、それもNPBでも2本しかない先頭打者弾(注2)だ。チームもそのまま岩崎を打ち崩して連敗を止めた。

2回戦 @神戸ほっともっとフィールド

BS	1	2	2	0	0	1	0	0	0				6
Dr	0	0	0	0	1	0	0	0	0				1

勝 西 1勝1敗

負 岩崎 1勝1敗

HR 青木1号[ランニング] 田中賢1号

盗塁 田中賢1盗塁(通算2)

岡田1盗塁(通算3)

(注1)スコアブックではランニングホームランをIP(Inside the Park)をつけて表現します。The Big 野球[2011年版]では珍プレイ好プレイを発生させ、さらに1/800の発生率(珍プレイ表20-20のあと1/2抽選)。今シーズンは不調で「あたしゃどっかの妖怪[誰?]"と違って、ダイス1個振りは普通の出目なんだよ(Season2「熱闘12球団ベントレース」は2個振り基本)」とかぼやくずんだもち監督/オーナーですが、こういう場面でゾロ目(20を3連投!そもそも珍プレイ表はダイス2個振りだよ)を絡めてビッグプレイを出すのですから、ゾロ目魔女の魔力は健在です。(注2)NPB史実の「先頭打者ランニングホームラン」は1958年6月25日:阪神・三宅秀史(Vs巨人@後楽園球場)と1998年6月28日:西武・松井稼頭央(Vsダイエー@福岡ドーム)が達成。両方共チームの勝ちに直結しているのですから、相手チームの士気を下げる効果は十分すぎるのでしょう。

管理ミス？投手異常起用の波紋

横 浜スタジアムが喧騒に包まれた。「なぜ、こんな起用が？」3日前、このスタジアムでドラゴノーズ相手に投げた能見がなぜか先発マウンドに立ったのだ。まだ疲労が残っているにもかかわらず、8回7奪三振、自責は初回の3連打による2点だけという好投をしたが、チームは貧打で敗戦、おまけに蓄積疲労による肩関節炎症で2日間の集中加療となった。「自分の管理・伝達ミスで能見を投げさせてしまった……」と説明する farlanx 監督/オーナーだが、試合中からファンが「farlanx と日本頭脳スポーツ協会(注3)は説明責任を果たせ！」と罵声をあげ、試合後デモをする事態となった。神奈川リトルリーグ連盟も「プロが投手を壊すような起用をしては困る」と苦言を呈している。(注4)

幕張マヌケ時空が生んだ Idiot-Turf 効果？

デ ィープワングスの Stawka 監督/オーナーが操るという「マヌケ時空」にかかれば、芝のバウンドが変わることもあるらしい。この試合、ディープワングス打線による内野へのゴロは、特にピッチャーマウンドの周りでイレギュラーバウンドをし続け、ローテンヘムデン守備を困惑させた。その結果が「14安打中6本が内野安打+内野ゴロ打球12個中6本内野安打」という珍記録である。「ここ(QVC マリン)は人工芝なんで、試合前にハイバウンドするゴロ処理の練習はしたんだけど、試合開始してからイレギュラーバウンドしまくったんだよなあ……」とローテンヘムデン二塁手——二塁前内野安打3本を許した——藤田が首をかしげた。(注5)

2回戦 @横浜スタジアム

PR	2	0	0	0	0	0	0	0	3				5
Ys	0	1	0	0	0	0	0	0	0				1

勝 篠田 1勝 1敗
 H 川越 1敗 1H 内 1H
 負 能見 1勝 2敗
 HR 大村 1号
 盗塁 なし

★GMCコミッションからの処分通告：試合結果は有効で、能見は負傷判定2回を行いその結果が左プレーヤーにある2日間の加療。かつ第6節まで一軍登録を義務。今シーズンは先発登板回数制限があるので、他ペナはなし。
 (注3) 8月14日から18日に横浜で行われた、日本頭脳スポーツ協会[本部：横浜]主催の国際頭脳スポーツフェスティバルは、当初予定していたパシフィコ横浜の会場費不払いが原因で2週間前に会場を変更、各選手・インストラクタの招待もなくなりしました。原因は犯罪被害(資金持ち逃げされたとの発表)とはいえ、その後のフォローのまずさから複数団体から参加ボイコットを受ける事態になりました。(私事ながら、コミSSIONナ：佐野もインストラクタとして招聘されていたのですが、なくなりました)
 (注4) 国際リトルリーグは先発投手の連投を禁止するなど、成長期の選手の体を守ることを徹底しています。日本の高校・大学がその点一番遅れていると思われます。

2回戦 @QVC マリンフィールド

RH	0	1	1	0	0	0	1	0	0				4
CD	0	4	0	0	0	0	2	1	X				7

勝 長谷川 2勝 H 石井 1H
 負 山内 1敗
 HR 松中2号 内川2号 新井貴2号 平野1号
 盗塁 なし

(注5) マヌケ時空の加護あって？ディープワングスはこのカードで珍プレイ好プレイ表から有利な結果を引き出し続けました。この試合で打った内野安打のうち1本は珍プレイの打者特徴、山内の一発病(投手特徴：ホームラン)も発症させ、たまたま「手にデッドボール・打者負傷」を出しても、被害者が史実フルイニング出場(=負傷退場しない)の坂口だったので「痛かっただけ」。対戦相手のYan監督が「やってらんねえ」とぼやくのも当然ですわな(苦笑)。
 [Mini Essay] 内野安打は記録員が守備状況を見て決めるため、複数の記録員がいれば内野安打とエラー、ランナーがいれば野選もと解釈が分かります。これを受けてセイバートリクスでは「内野に打って出塁した」として同一扱い・出塁率をメインにみています。Season5の打撃成績はNPB・MLBに準じて計算(失策・野選を打数外にする)していますが、Season6があれば、セイバートリクス基準で計算し、特に打者得点生成力も算出したいなど。

★その他の試合 (6 試合) ★

Dr vs BS @ 神戸ほっともってフィールド

1 回戦

BS	0	0	0	0	0	0	0	1	0				1
Dr	0	1	0	0	1	0	0	0	X				2

勝 摂津 1勝 H 大場 1H S 岸田 1S 1H
 負 中山 2敗
 HR なし
 盗塁 伊志嶺 1盗塁 (通算2)

2 回原・鶴岡連続 2 塁打で先制し、5 回中島の適時打で的確な追加点を取ったドラゴノーズの勝利。先発摂津が 6 回に打球処理中の打ち身で大事をとって降板するも、その後を大場・岸田が守りきった。

3 回戦

BS	2	0	0	0	0	0	1	0	0				3
Dr	0	0	0	1	0	1	2	1	X				5

勝 平野 1勝 1S S 岸田 1勝 2S 1H
 負 吉川 1敗
 HR バレンティン 2号 中村剛 4号
 盗塁 岡田 1盗塁 (通算4)

バレンティンに先制 2 ランが出るも、下位打線の活躍で追いつき、7 回の中村剛のキング 2 ランで逆転、岸田が抑えてドラゴノーズは首位キープ。プリムストーンズは後半の継投ミスで先制点を無駄にした。

Ys vs PR @ 横浜スタジアム

1 回戦

PR	6	0	2	0	0	0	1	0	0				9
Ys	0	0	0	0	0	0	1	0	0				1

勝 バリントン 1勝
 負 鄭 1敗
 HR 谷繁 2号 ホワイトセル 2号
 盗塁 陽 1盗塁 (通算2) 松田 1盗塁 (通算2)

初回中田から 4 者連続安打、締めくくりが谷繁の 3 ランの打者一巡 6 点で勝負アリ。ソーサリアンズは 9 番相川が 3 安打も、他打者が 9 人合わせて 4 安打では太刀打ちできなかった。

3 回戦 ※延長 11 回

PR	0	0	0	0	4	0	0	0	1	0	1		6
Ys	0	0	1	2	0	1	1	0	0	0	0		5

勝 ロサ 1勝 S 藪田 3S
 負 三瀬 1敗
 HR 高橋由 1号 松田 2号
 盗塁 糸井 2盗塁 (通算3) 川崎 1盗塁 (通算4)

高橋由・松田のソロなどで先制されるも 5 回に集中 5 連打で逆転、6 回に追いつかれ 7 回に勝ち越しを許したが、9 回に追いつき、延長 11 回陽・田中浩の連打で点を取ったパシフィックライジングが 3 タテを決めた。

CD vs RH @ QVC マリンフィールド

1 回戦

RH	0	3	0	0	0	0	0	0	1				4
CD	0	0	0	0	0	1	0	0	0				1

勝 ネルソン 2勝 H 西村 1H
 負 永井 2敗
 HR 筒香 4号
 盗塁 福田 1盗塁 (通算1)

2 回の筒香 3 ランを投手陣が守りきってローテンヘムデンが勝利。投手陣はネルソンが 6 回坂口への死球・T-岡田の 2 塁打で失点しただけで、ディーブワーズに 10 残塁を記録させた。

3 回戦

RH	0	0	0	0	0	0	0	0	0				0
CD	0	0	0	0	3	0	0	0	X				3

勝 井坂 1勝 1敗
 負 山井 1敗
 HR なし
 盗塁 なし

山井が肩を気にし始めた 5 回、ディーブワーズは四球と内野安打をきっかけに鳥谷の押し出し四球と平野の 2 点適時打で一点突破。それを「深き方程式」が守り抜いた。ローテンヘムデンは連敗で貯金がなくなった。

●チーム打撃成績●

	打率	HR	盗塁
PR	.275	8	5
CD	.272	8	1
Dr	.266	8	7
RH	.254	11	3
Ys	.251	6	10
BS	.226	7	5

●チーム投手成績●

	防御率	奪三振
CD	1.79	72
Dr	2.93	70
RH	2.54	69
PR	3.75	79
Ys	3.80	76
BS	3.85	72

●打者個人成績ランキング●

★★打率ベスト10★★(規定打席[37.2]以上)

	打率	打数	安打
青木宣親 BS	.449	49	22
糸井嘉男 PR	.422	45	19
ラミレス Ys	.395	43	17
原拓也 Dr	.389	36	14
坂口智隆 CD	.364	44	16
平野恵一 CD	.333	45	15
筒香嘉智 RH	.333	36	12
中村剛也 Dr	.333	39	13
長野久義 Ys	.326	43	14
宮本慎也 PR	.319	47	15

●投手個人成績ランキング●

★★防御率ベスト10★★(規定投球回数[12]以上)

	防御率	投球回数	自責点
木佐貫洋 BS	0.64	14回 0/3	1
石井裕也 CD	0.68	13回 1/3	1
田中将大 CD	1.00	18回 0/3	2
吉見一起 RH	1.13	16回 0/3	2
西勇輝 BS	1.35	13回 1/3	2
和田毅 Dr	1.69	16回 0/3	3
能見篤史 Ys	1.80	25回 0/3	5
岩隈久志 CD	1.80	15回 0/3	3
ネルソン RH	1.88	14回 1/3	3
寺原隼人 BS	1.93	18回 2/3	4

★★本塁打ベスト5★★

	本塁打
筒香嘉智 RH	4
中村剛也 Dr	4
ブラゼル CD	3
11選手	2

★★打点ベスト5★★

	打点
稲葉篤紀 BS	12
筒香嘉智 RH	10
中田翔 PR	9
中村剛也 Dr	8
ブラゼル CD	8
畠山和洋 PR	8

★★盗塁ベスト5★★

	盗塁
川崎宗則 Ys	4
岡田幸文 Dr	4
青木宣親 BS	3
糸井嘉男 PR	3
鈴木尚広 Ys	3

★★勝利数ベスト5★★

	勝利
田中将大 CD	2
ネルソン RH	2
長谷部康平 CD	2
29投手	1

★★ホールド数ベスト5★★

	ホールド
12投手	1

★★セーブ数ベスト5★★

	セーブ
藪田安彦 PR	3
岸田護 Dr	2
藤川球児 RH	2
5投手	1

★★奪三振ベスト5★★

	奪三振
能見篤史 Ys	22
和田毅 Dr	16
木佐貫洋 BS	13
前田健太 PR	13
田中将大 CD	12